



取扱説明書

⚠ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

WR125R

モーターサイクル

WR125R (WR125-A)

BWN-F8199-J0

安全運転のために	1
各部の名称	2
スマートフォン連携システム	3
各部の取り扱いと操作	4
日常点検	5
運転操作	6
点検整備	7
お車の手入れ	8
製品仕様	9
ユーザー情報	10
索引	11

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。



この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1	イグニッションサーキットカッ		ドライブチェーン.....	7-14
あなた自身と同乗者のために.....	1-1	トオフシステム.....	4-18	ドライブチェーンの給油.....	7-15
歩行者と他の車のために.....	1-5			バックミラー.....	7-15
環境・住民の方との調和のために.....	1-6			車体各部の給油脂状態の点検.....	7-16
		日常点検	5-1	アンダーブラケットの取り付け	
各部の名称	2-1	日常点検の実施.....	5-1	状態の点検（ステアリングス	
左側面.....	2-1	日常点検箇所／点検内容.....	5-1	テム）.....	7-16
右側面.....	2-2			バッテリー.....	7-17
運転装置と計器類.....	2-3			ヒューズ交換.....	7-18
		運転操作	6-1	灯火装置および方向指示灯の点検...	7-20
スマートフォン連携システム	3-1	ならし運転.....	6-1	運行において異常が認められた	
CCU（コミュニケーションコン		エンジン始動.....	6-1	箇所点検.....	7-20
トロールユニット）.....	3-1	ギヤチェンジのしかた.....	6-2		
		ブレーキ.....	6-3		
		駐車.....	6-4		
				お車の手入れ	8-1
各部の取り扱いと操作	4-1	点検整備	7-1	洗車.....	8-1
キーの取り扱い.....	4-1	点検整備の実施.....	7-1	アルミフレームの取り扱い.....	8-2
メインスイッチ.....	4-1	サービスツール.....	7-2	保管のしかた.....	8-2
警告灯と表示灯.....	4-3	カバーの取り外し、取り付け.....	7-2	アフターケア用品について.....	8-3
マルチファンクションメーター.....	4-4	エンジンオイル.....	7-3		
ハンドルスイッチ.....	4-10	エンジンのかかり具合、異音の点検...	7-5	製品仕様	9-1
ABS.....	4-12	低速、加速の状態の点検.....	7-5		
フューエルタンクキャップ.....	4-13	冷却水.....	7-6	ユーザー情報	10-1
燃料.....	4-14	エアクリナーエレメントの交換.....	7-7	二輪車を廃棄する場合は？.....	10-1
シート.....	4-14	タイヤ.....	7-8	サービスマニュアル(別売)の紹介...	10-2
ヘルメットホルダー.....	4-15	クラッチレバーの遊びの調整.....	7-10	車両情報.....	10-2
書類入れ.....	4-15	ブレーキレバーの遊び／ブレー			
ツールボックス.....	4-15	キペダルの遊び、およびブ			
リヤクッションの調整.....	4-16	レーキのきき具合の点検.....	7-11	索引	11-1
DC コネクター.....	4-17	ブレーキランプスイッチ.....	7-12		
サイドスタンド.....	4-18	ブレーキパッドの点検.....	7-12		
		ブレーキ液量の点検.....	7-13		

JAU27281

JAUA0810

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

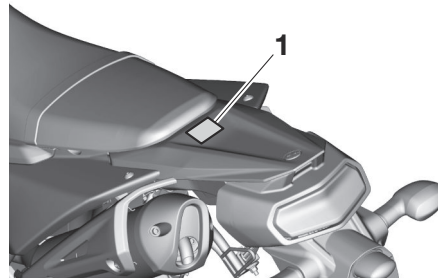
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車するなどの配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のもので適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - プロテクターを備えた保護性の高い服

安全運転のために

1

で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服

- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 靴はかか下が低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを

選んでください。

- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

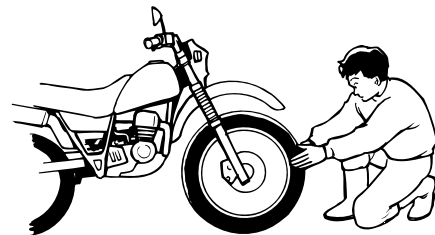
JWA11601

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



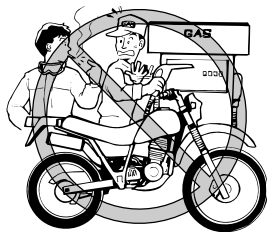
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

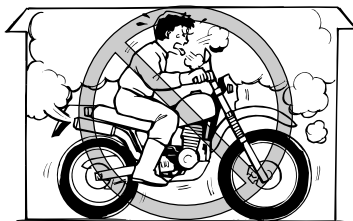
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

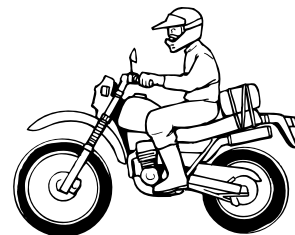
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせま

安全運転のために

1

す。



乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注意

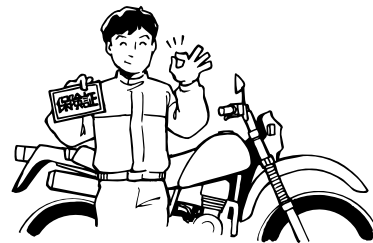
部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してくださ

い。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

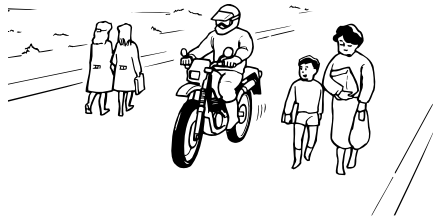


歩行者と他の車のために

JAU27504

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つが徐行してください。



駐車

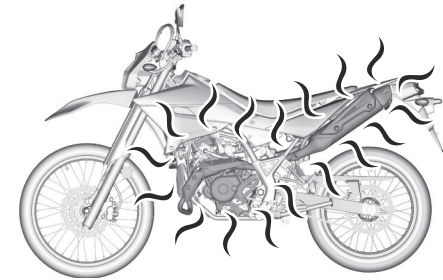
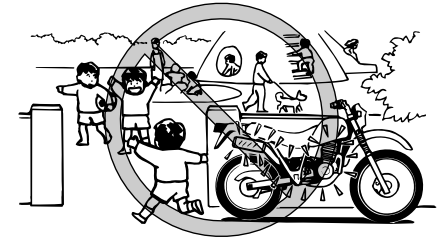
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

安全運転のために

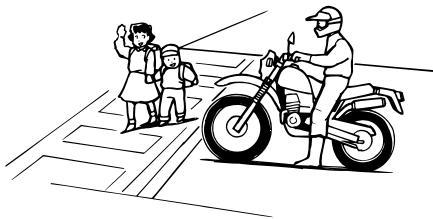
1

環境・住民の方との調和のために

JAU27582

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

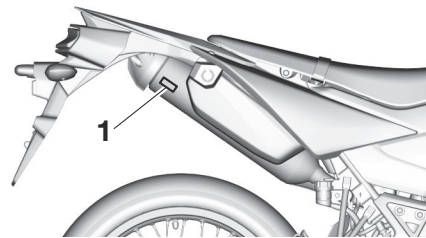


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



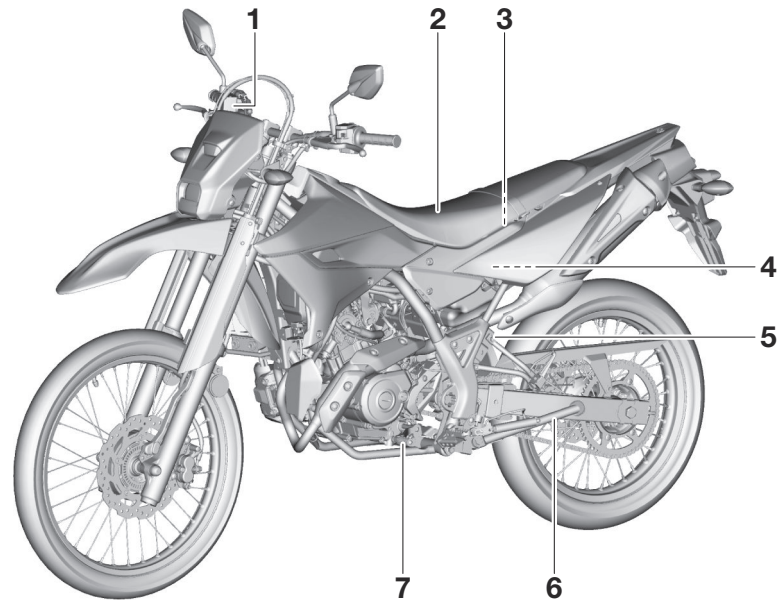
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面

2



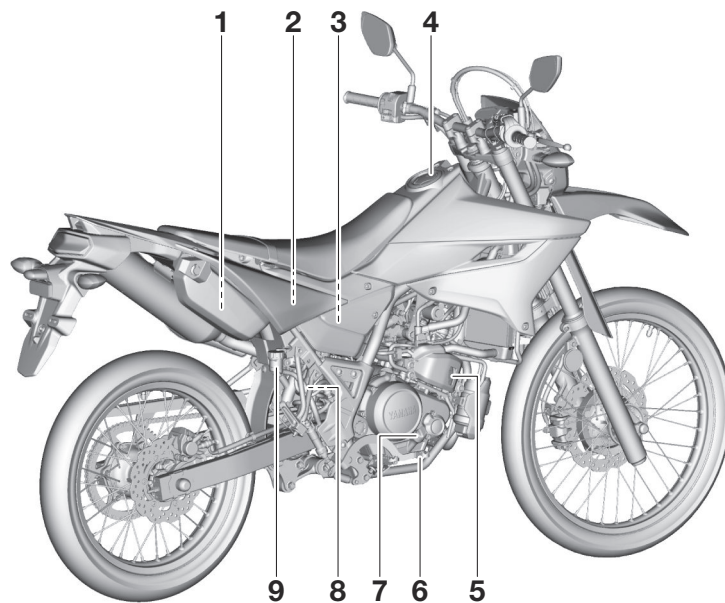
1. フロントブレーキリザーバータンク (P7-13)
2. シート (P4-14)
3. ヒューズ (P7-18)
4. エアクリーター (P7-7)
5. ヘルメットホルダー (P4-15)
6. サイドスタンド (P4-18)
7. シフトペダル

各部の名称

JAU10421

右側面

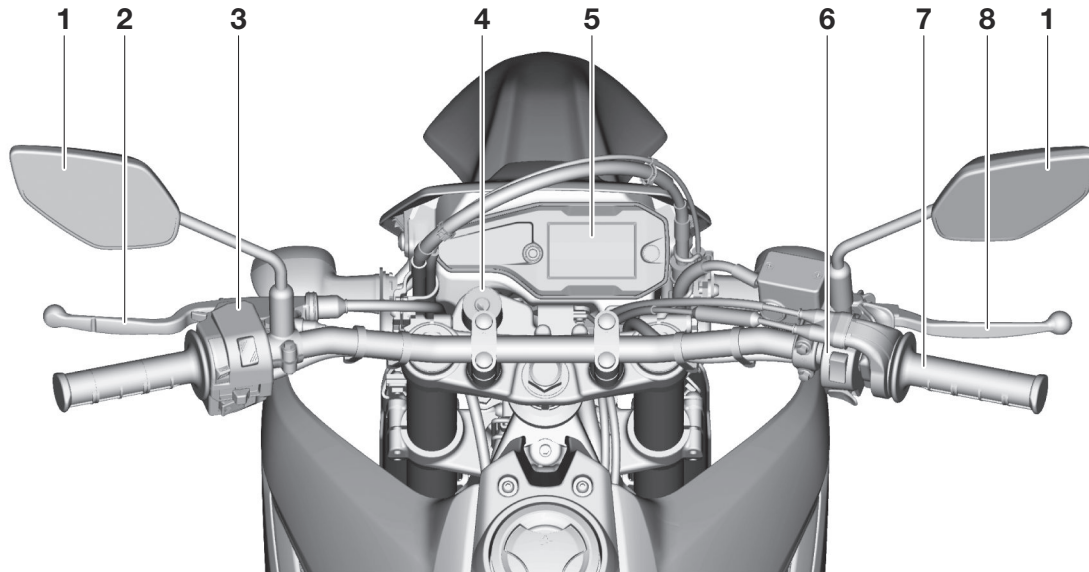
2



1. サービスツール (P7-2)
2. ヒューズボックス (P 7-18)
3. バッテリー (P7-17)
4. フューエルタンクキャップ (P4-13)
5. 冷却水点検窓 (P7-6)
6. ブレーキペダル (P7-11)
7. オイル注入口 (P7-3)
8. スプリングプリロードアジャスター (P4-16)

9. リヤブレーキリザーバータンク (P7-13)

運転装置と計器類



1. バックミラー (P7-15)
2. クラッチレバー (P7-10)
3. ハンドルスイッチ (左) (P4-10)
4. メインスイッチ/ハンドルロック (P4-1)
5. マルチファンクションメーター (P4-4)
6. ハンドルスイッチ (右) (P4-10)
7. スロットルグリップ
8. ブレーキレバー (P7-11)

スマートフォン連携システム

3

CCU (コミュニケーションコントロールユニット)

JAU48360

このモデルには、車両とスマートフォンを Bluetooth 接続できる CCU (コミュニケーションコントロールユニット) が搭載されています。接続するには、スマートフォンアプリ Yamaha Motorcycle Connect を使用します。接続すると、SNS (ソーシャルネットワークサービス) アプリからの通知、電話の着信や不在着信、スマートフォンのバッテリー残量 (めやす) を車両のメーターに表示します。さらに、Yamaha Motorcycle Connect アプリでは、最後に駐車した場所の表示など、様々な機能をご利用いただけます。

JWA21413

警告

- 走行中に注意を怠ると、死亡または重傷を負うおそれがあります。常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。
- 設定の変更やスマートフォンの操作を行う場合は、必ず車両を停止してください。
- 走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はハンドルから手を離さないでください。

要点

- 車両の電源をオンにした後、または車両のバッテリーの再接続後は、CCU が起動して Bluetooth 接続が安定するまでには、ある程度の時間がかかります。
- 一部の接続機能は、接続されたスマートフォンで有効にする必要があります。
- スマートフォンの種類や OS のバージョンによっては、一部の接続機能がご利用いただけない場合があります。
- 次のような場合、接続機能に支障をきたす可能性があります。
 - ・ スマートフォンのネットワーク接続が混雑している
 - ・ Bluetooth 接続が不安定
 - ・ スマートフォンに多くのデバイスが同時に接続されている
- 次のような場合、Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。
 - ・ 強い電波、ノイズのある場所で操作
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備がある
- CCU に一度に接続できるスマートフォンは 1 台です。
- 複数のスマートフォンが CCU に登録されている場合、接続可能範囲内に最初に

入ったスマートフォンに接続されます。

初期設定 : Yamaha Motorcycle Connect アプリ



Yamaha Motorcycle Connect は、CCU とスマートフォンを接続するために必要な無料アプリです。

CCU と Yamaha Motorcycle Connect アプリをペアリングすると、スマートフォンが CCU に登録されます。ペアリングが完了すると、スマートフォンのバッテリー残量計とアプリ接続アイコン「App」が点灯します。(4-4 ページ参照)

以下の QR コードを読み込んで Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードするか、アプリストアで名前を検索してください。



次の方法で、CCU とスマートフォンのペアリングができます。

- Yamaha Motorcycle Connect アプリに車台番号を入力する（10-2 ページ参照）
- Yamaha Motorcycle Connect アプリで CCU の QR コードを読み込む（3-2 ページ参照）

要 点

- 一度ペアリングしたスマートフォンは CCU に登録されます。次回、車両の電源をオンにしたとき、Yamaha Motorcycle Connect アプリを起動すると自動的に接続されます。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用するには、Yamaha Motorcycle Connect の利用規約に同意する必要があります。

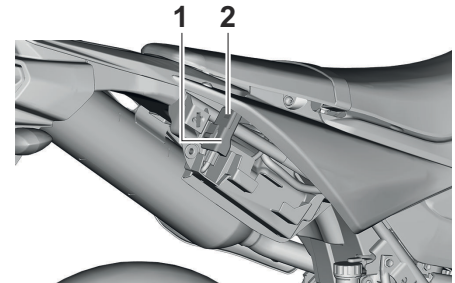
ります。

- Yamaha Motorcycle Connect アプリは、スマートフォンの種類や OS のバージョンによっては使用できない場合があります。
- スマートフォンの動作は機種により異なります。接続、Bluetooth の検出、アプリのアクセス許可、およびその他の設定については、個々のスマートフォンで手順を参照してください。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリは今後のアップデートにより、一部の接続機能や表示機能が変更される可能性があります、このマニュアルの内容と異なる場合があります。

CCU の QR コードを読み込む

次の手順で CCU の QR コードを読み込み、スマートフォンと車両をペアリングします。

1. ツールボックスを開けます。（4-15 ページ参照）
2. CCU を確認したら、アプリで QR コードを読み込みます。



1. CCU (コミュニケーションコントロールユニット)
2. CCU の QR コード

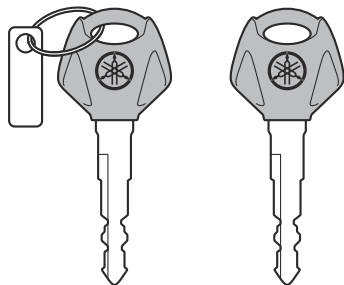
各部の取り扱いと操作

4

キーの取り扱い

JAU31082

- キーは車の操作や保管をするときに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



JCA12502

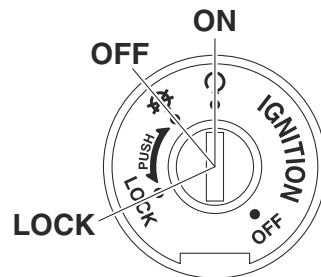
注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に

当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをおすすめします。

メインスイッチ


JAU65380



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA18110

警告

走行中にメインスイッチを“”やLOCKの位置にすると、電気システムの作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA22220

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを“○”のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。


要 点

盗難予防のため、車両から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

○ (オン)

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを“”にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

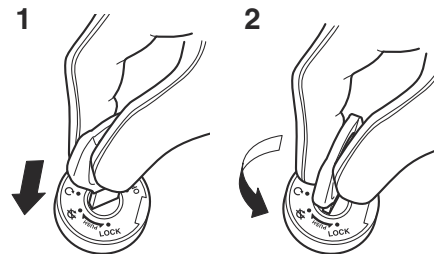
(オフ)

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。


LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. “”の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

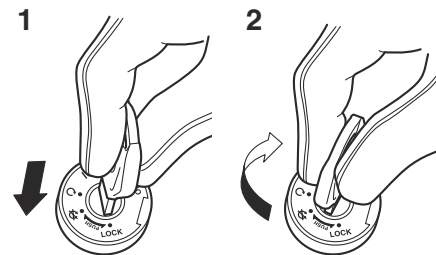
要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し左右に動かしながらキーを回します。


3. キーを抜きます。

JAU73830

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

キーを押しこみ、そのまま “” まで回します。

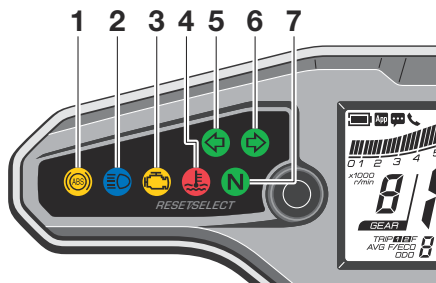
JAU85950







JAU63880

各部の取り扱いと操作

警告灯と表示灯

JAU45930



1. ABS 警告灯 “”
2. ハイビーム表示灯 “”
3. エンジン警告灯 “”
4. 水温警告灯 “”
5. 方向指示器表示灯 (左) “”
6. 方向指示器表示灯 (右) “”
7. ニュートラルランプ “”

方向指示器表示灯 “” / “”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88280

ニュートラルランプ “”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88300

ハイビーム表示灯 “”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU88310

JAU4410

水温警告灯 “”

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

ラジエーターファンのあるモデルは、ラジエーター内の冷却水の温度に応じて、ラジエーターファンが自動的に作動します。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けしないでください。

JAU88331

エンジン警告灯 “”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

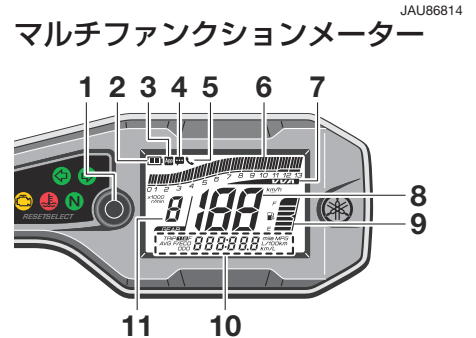
注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えしないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フェューエルインジェクターを使用したり、サスペン



1. “RESET/SELECT” ボタン
2. スマートフォンのバッテリー残量計
3. アプリ接続アイコン
4. アプリ通知アイコン “☰”
5. 着信通知アイコン “☎”
6. タコメーター
7. VVA（可変バルブ機構）表示
8. スピードメーター
9. 燃料計
10. マルチファンクションディスプレイ
11. ギャポジションディスプレイ

JWA12423

警告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

要 点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA21120

警告

5 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき:

- 急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。
- 直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

ション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。

- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU91500

ABS 警告灯 “”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

各部の取り扱いと操作

4

着信通知アイコン “☎”

JAUA3220

接続しているスマートフォンに着信があると点滅し、通話中は点灯したままになります。電話に出なかった場合は、車両の電源をオフにするまでアイコンが点灯します。

要 点

この機能は、スマートフォンが車両と接続されているときのみ作動します。

アプリ通知アイコン “☎”

JAUV1002

接続中のスマートフォンが SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）や電子メールなどの通知を受信すると、このアイコンが 10 秒間点滅します。その後、車両の電源をオフにするまでアイコンは点灯します。

要 点

- この機能は、スマートフォンが車両と接続されているときのみ作動します。
- あらかじめ接続するスマートフォンのアプリごとに通知設定が必要です。

アプリ接続アイコン

JAUV1510

Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して CCU とスマートフォンを接続す

ると、アイコンが点灯します。

要 点

スマートフォンと接続していなくても、車両の電源をオンにしたとき、アイコンが数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときにアイコンが点灯しない場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

スマートフォンのバッテリー残量計

JAUA3240

接続しているスマートフォンの現在のバッテリー残量を表示します。バッテリー残量が減ると残量計のセグメントの数が減ります。残りが約 10%以下になると、残りの 1 セグメントと残量計枠が点滅して知らせます。

要 点

スマートフォンと接続していなくても、車両の電源をオンにしたとき、残量計が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに残量計が点灯しない場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

表示単位切り替え

JAUN5130

キロメートルとマイルの単位を切り替えることができます。

表示単位の切り替えかた

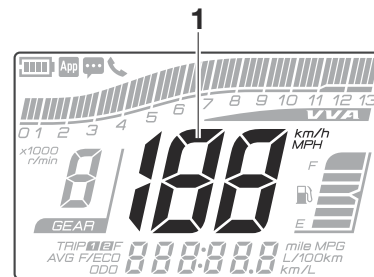
1. マルチファンクションディスプレイをオドメーターにします。
2. “RESET/SELECT” ボタンを表示単位が切り替わるまで押します。

要 点

走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

スピードメーター

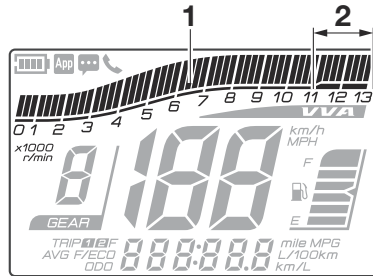
JAU86831



1. スピードメーター
車の速度を示します。

タコメーター

JAU87180



1. タコメーター
2. 高回転ゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。

JCAM1150

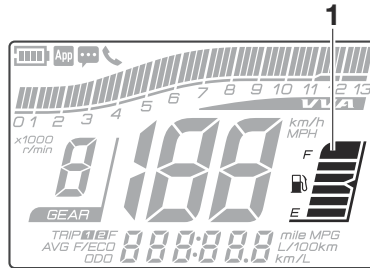
注意

エンジン回転数が高回転ゾーンに入らないように運転してください。

高回転ゾーン: 11000 r/min 以上

燃料計

JAU86842



1. 燃料計

フューエルタンク内の燃料残量を表示します。残量が減ると、燃料計のセグメントが“F”（満）から“E”（空）の方向に消灯していきます。残量が約 1.6 L になると、最後のセグメントが点滅を始めます。早めに補給してください。

要点

燃料計の電気回路に異常が検出された場合、燃料計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。

JCAE0121

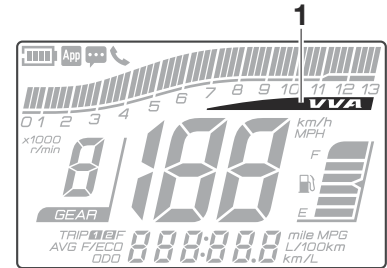
注意

燃料を完全に使い切らないでください。触

媒が損傷するおそれがあります。

VVA 表示

JAU87370



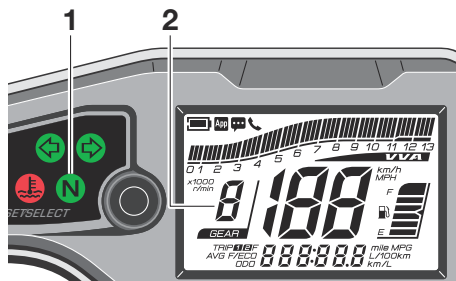
1. VVA（可変バルブ機構）表示

この車には、低速域から高速域まで優れた燃費と加速を実現する可変バルブ機構（VVA）が装備されています。VVA 表示は可変バルブ機構が高速域に切り替わると点灯します。

各部の取り扱いと操作

ギヤポジションディスプレイ

JAU43260

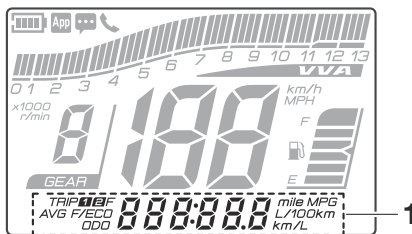


1. ニュートラルランプ “N”
2. ギヤポジションディスプレイ

選択しているギヤポジションを表示します。ギヤがニュートラルのときは、“N”を表示し、ニュートラルランプ“N”が点灯します。

マルチファンクションディスプレイ

JAU5140



1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1/TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 時計
- 瞬間燃費表示 (F/ECO)
- 平均燃費表示 (AVG F/ECO)

“RESET/SELECT” ボタンを使用すると、下記の順で表示が切り替わります。

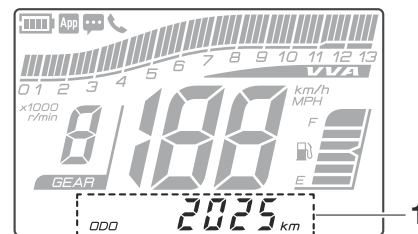
ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F →
時計 → F/ECO → AVG F/ECO → ODO

要 点

燃料が少なくなると、フューエルトリップメーターが表示されます。

オドメーター

JAU8691



1. オドメーター

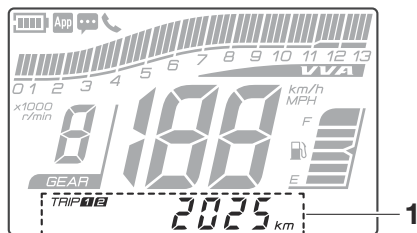
走行した総距離を表示します。

要 点

オドメーターは、最大値 (999999 km) を超えると最大値で固定されます。

トリップメーター

JAU88060



1. トリップメーター

最後にゼロに設定した地点からの走行距離を表示します。

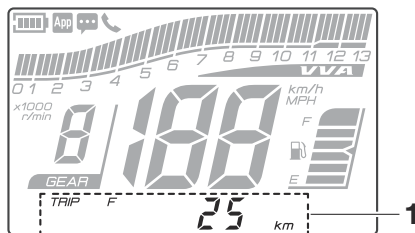
トリップメーターをリセットするには、リセットしたいトリップメーターを表示させ、「RESET/SELECT」ボタンをリセットされるまで押します。

要 点

トリップメーターは、最大値（9999.9 km）を超えるとリセットされます。

フューエルトリップメーター

JAU87610



1. フューエルトリップメーター

燃料計の最後のセグメントが点滅を始めると、自動的にフューエルトリップメーター「TRIP F」に切り替わり、その地点からの走行距離の計測を始めます。

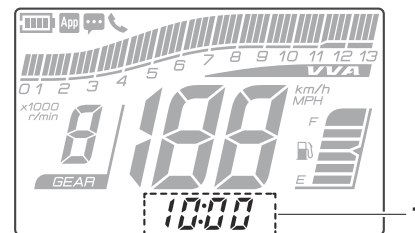
フューエルトリップメーターをリセットするには、「RESET/SELECT」ボタンをリセットされるまで押します。

要 点

フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にリセットされて表示されなくなります。

時計

JAU8490



1. 時計

この時計は 12 時間表示です。

時刻調整のしかた

1. 車両の電源をオンにします。
2. 時計を表示して、<時>の表示が点滅するまで、「RESET/SELECT」ボタンを押します。
3. 「RESET/SELECT」ボタンを押して<時>を合わせます。
4. <分>の表示が点滅するまで、「RESET/SELECT」ボタンを押します。
5. 「RESET/SELECT」ボタンを押して<分>を合わせます。
6. 「RESET/SELECT」ボタンを長押しすると、時刻調整が完了します。

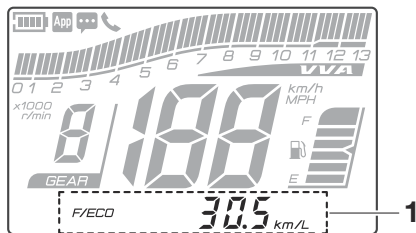
各部の取り扱いと操作

要点

スマートフォンとCCUが接続されると、時計は自動的に更新されます。

JAU87750

瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

現在の走行状態における燃費を表示します。“km/L”または“L/100km”を表示することができます。燃費の単位を切り替えるには、表示が切り替わるまで“RESET/SELECT”ボタンを押します。

- “km/L”：1.0 Lの燃料で走行できる距離が表示されます。
- “L/100km”：100 kmの走行に必要な燃料の量が表示されます。

要点

10 km/h未滿の速度で走行している場合は、“_ _ _”と表示されます。

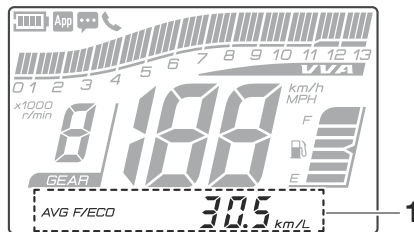
JAU87790

要点

瞬間燃費は一般的な参照値としてのみ使用してください。この数値から、現在の燃料で走行できる距離を推定しないでください。

平均燃費表示

JAU87811



1. 平均燃費表示

最後にリセットした時点からの平均燃費を表示します。リセットするには、平均燃費を表示させ、“RESET/SELECT”ボタンをリ

セットされるまで押します。

要点

- 平均燃費表示をリセット後は、ある程度走行するまで“_ _ _”と表示されます。
- 平均燃費の単位は“km/L”または“L/100km”で表示され、瞬間燃費表示で切り替えることができます。(4-9ページ参照)

JAU2890

メッセージ表示

マルチファンクションメーターには、車両の電源をオンにすると“Hi bro”のメッセージが表示されます。“Hi bro”はメッセージ表示設定モードで変更できます。

メッセージ表示設定モード

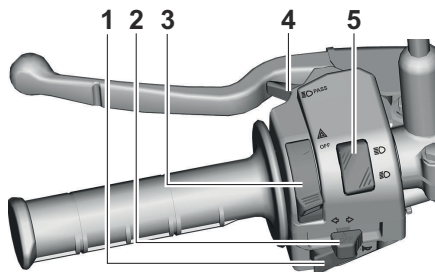
1. 車両の電源をオフにします。
2. “RESET/SELECT”ボタンを押しながら、車両の電源をオンにします。画面がメッセージ表示設定モードに切り替わるまで、“RESET/SELECT”ボタンを押します。
3. “RESET/SELECT”ボタンを押すと、点滅している文字が次の英数字に変わります。

4. “RESET/SELECT” ボタンを文字の点滅が止まるまで押すと確定され、次の文字に移動します。
5. すべての文字が確定されると、設定したメッセージ表示が2回点滅して、メッセージ表示設定モードが自動的に終了します。

ハンドルスイッチ

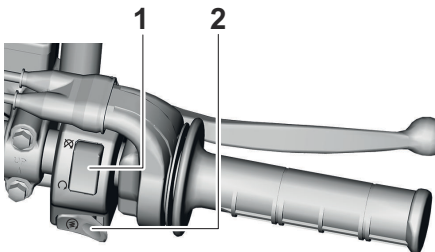
JAU1234U



<左>



1. ホーンスイッチ “”
2. 方向指示器スイッチ “/”
3. ハザードスイッチ “/OFF”
4. パッシングライトスイッチ “PASS”
5. ヘッドライトスイッチ “/”

<右>




1. エンジンストップスイッチ “/”
2. スタータースイッチ “”

JAU12362

パッシングライトスイッチ “PASS”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。


要 点

ヘッドライトスイッチが “” のときは、使用できません。

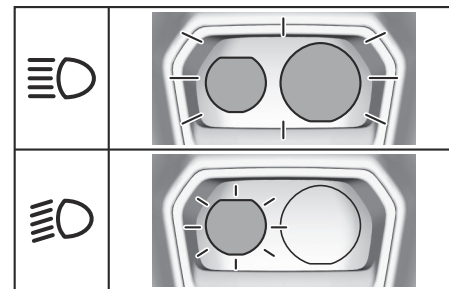
JAU12402

ヘッドライトスイッチ “/”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

 (上向き)：遠くを照らします。

 (下向き)：近くを照らします。



各部の取り扱いと操作

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “◁/▷”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

▷：右側の方向指示灯が点滅します。

◁：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

JAU12501

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28184

エンジンストップスイッチ “/○”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は“○”にしておきます。


JWA12101

警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12353

注意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを “○” → “” → “○” にしないでください。エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

ます。

要 点

“” にすると、エンジンは始動できません。

JAU12713

スタータースイッチ “”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882


注意

- スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。

JAUN2211

ハザードスイッチ “/OFF”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点灯させます（すべての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプを点灯させるには、スイッチを “” 側にスライドします。ハザードランプを消灯させるには、スイッチを “OFF” 側

にスライドします。

JCA11891

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAUN5170

ABS

この車両の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキに作用します。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

警告

- ABS は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。

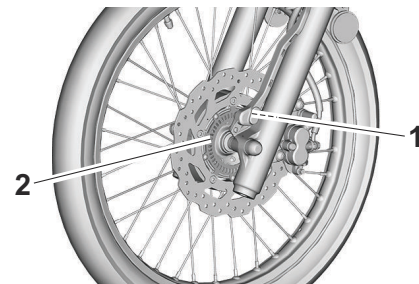
要点

ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。

JCA20100

注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター

各部の取り扱いと操作

フューエルタンクキャップ

JAUM2083

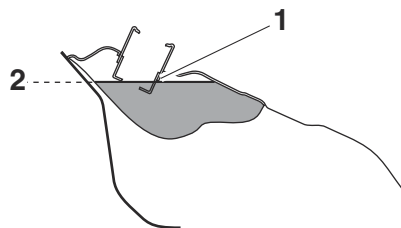
JWA12172

警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

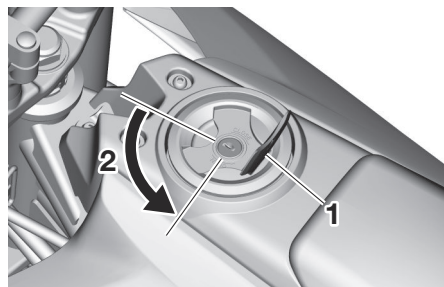
- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れしないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの取り外しかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、反時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを取り外します。

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. キーを差し込んだ状態で、フューエルタンクキャップを取り付けます。
2. キーを時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを取り付けることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく取り付けないと、キーを抜くことはできません。

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28314

指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン

タンク容量：

8.1 L

JCA12512

注意

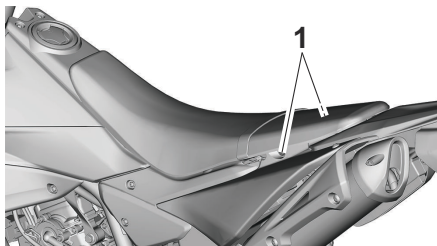
- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

シート

JAU48450

シートの取り外しかた

ボルトとワッシャーを外し、シートを後方に引いてから持ち上げて取り外します。

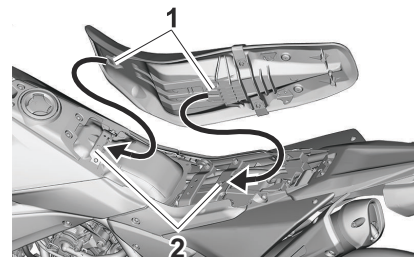


1. ボルト／ワッシャー

シートの取り付けかた

1. シートの突起を図のようにシートホル

ダーに差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー

2. シートとワッシャーを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

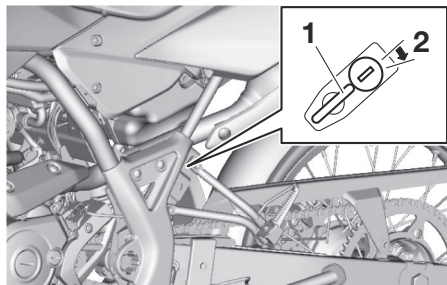
要点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

各部の取り扱いと操作

ヘルメットホルダー

JAU14283



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのおごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

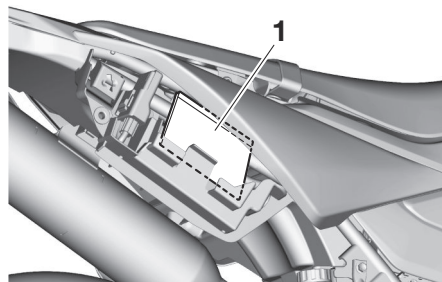
ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

JAU8480

ツールボックスに書類入れ（収納用ポーチ）があります。（4-15 ページ参照）

自賠責保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにしてツールボックスに保管してください。

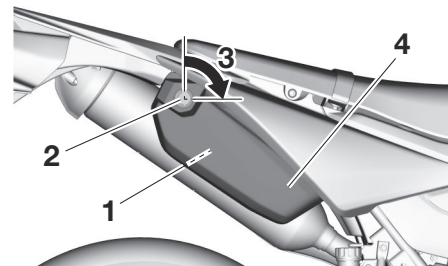


1. 書類入れ

ツールボックス

JAUN5184

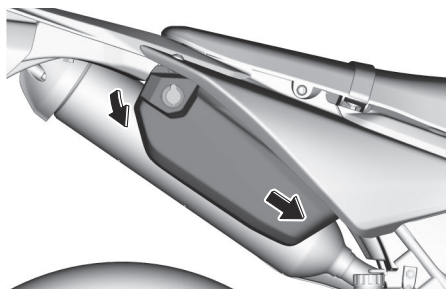
ツールボックスは図で示す場所にあります。



1. ツールボックス
2. ロックカバー
3. 解除
4. ツールボックスカバー

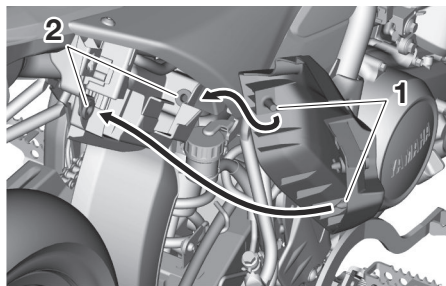
ツールボックスの開けかた

1. ロックカバーをスライドさせて開きます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. ツールボックスカバーを手前に引きだしてから前方にスライドさせ、ツールボックスカバーを取り外します。



ツールボックスの閉めかた

1. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回した状態で、図のようにツールボックスカバーの突起を孔に差し込み、ツールボックスカバーを元の位置に戻します。



1. 突起
2. 孔

2. キーを反時計方向に 1/4 回してロックします。
3. キーを抜き取り、ロックカバーをスライドさせて閉じます。

JCA29020

注意

熱に弱い物をツールボックスに収納しないでください。ツールボックス内は、直射日光などによって高温になります。

リヤクッションの調整

JAU14835

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JWA12441

警告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

JCA10102

注意

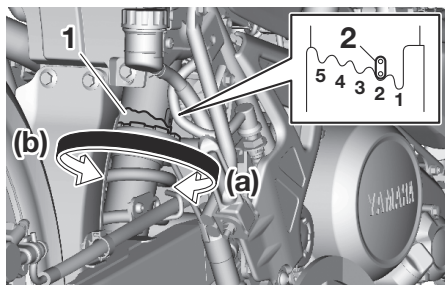
調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。

各部の取り扱いと操作

JAU70642



1. アジャスター
2. インジケーター

要 点

アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。

スプリングプリロード：

- 最小（ソフト）：
1 段
- 標準：
2 段
- 最大（ハード）：
5 段

JWA10222



リヤクッションユニットには高圧窒素ガス

が封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。

コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

サイドスタンド

JAU15306

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない) 場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店で修理を依頼してください。

イグニッションサーキットカットオフシステム

JUAU1640

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要 点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、4-1 ページ、4-10 ページを参照してください。

JWA11541

警告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

JAUUA1651

4

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JAU1559B

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービストールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

JAU30142

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷却水の量が適切であること。(※) ● エンジンオイルの量が適切であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適切であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。ならし運転中はエンジン回転数を 6600 r/min 以下で走行してください。

また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。

ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU27665

エンジン始動

JAU48032

JWA11562

警告

- エンジンを始動するときには、4-18 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. 車両の電源をオンにし、エンジンストップスイッチが“○”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスター

タースイッチを押してください。

JCA16661

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

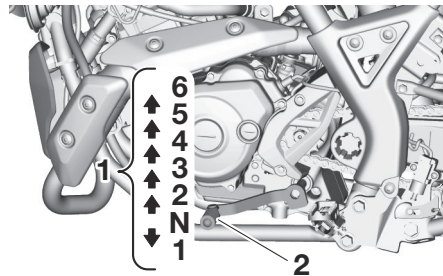
JAU45312

要 点

この車には、メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させる機構が装備されています。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。

ギヤチェンジのしかた

JAU27517



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要 点

ニュートラル (N) にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

注 意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。

- ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度

- 1 速: 0 km/h-30 km/h
- 2 速: 10 km/h-50 km/h
- 3 速: 15 km/h-65 km/h
- 4 速: 20 km/h-80 km/h
- 5 速: 25 km/h-95 km/h
- 6 速: 30 km/h 以上

シフトダウン速度

- 6 速 → 5 速: 75 km/h 以下
- 5 速 → 4 速: 65 km/h 以下
- 4 速 → 3 速: 55 km/h 以下
- 3 速 → 2 速: 40 km/h 以下
- 2 速 → 1 速: 25 km/h 以下

JWA20720

警告

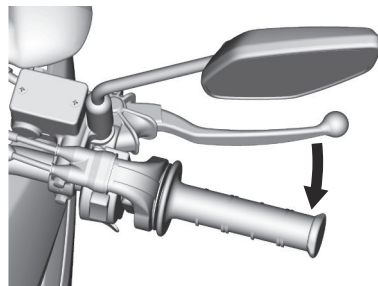
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

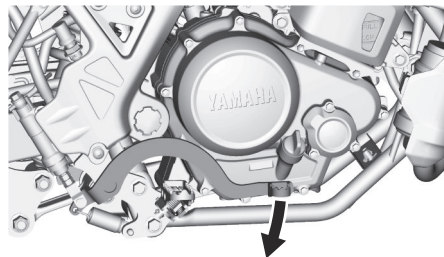
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



JWA11573

警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。

- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備の実施

JAU29839

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してく

ださい。

- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ・ 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - ・ エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - ・ 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - ・ 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ・ 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461



警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。

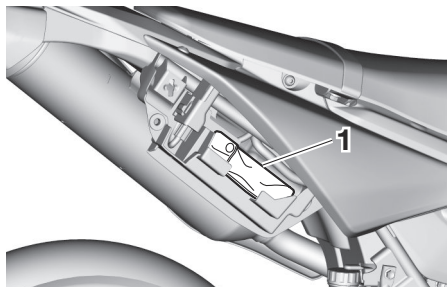
要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービストールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU44311

サービスツールはツールボックスに格納してあります。

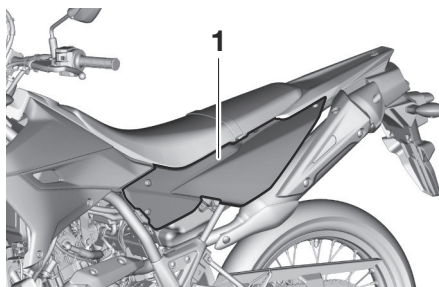


1. サービスツール

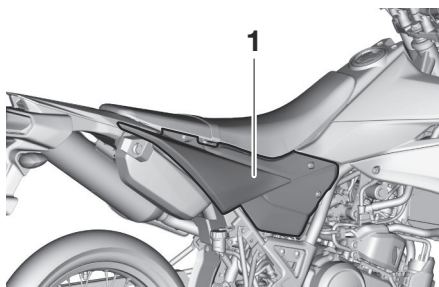
カバーの取り外し、取り付け

JAU18773

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A

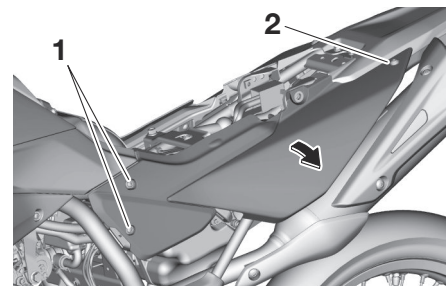


1. カバー B

カバー A

カバーの取り外しかた

1. シートを取り外します。(4-14 ページ参照)
2. ボルトを外して、カバーとワッシャーを取り外します。



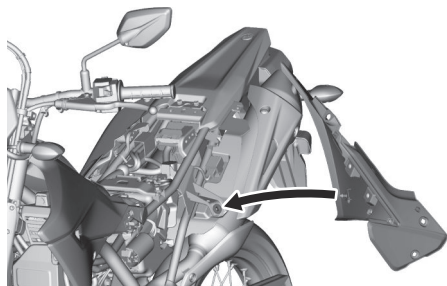
1. ボルト/ワッシャー
2. ボルト

カバーの取り付けかた

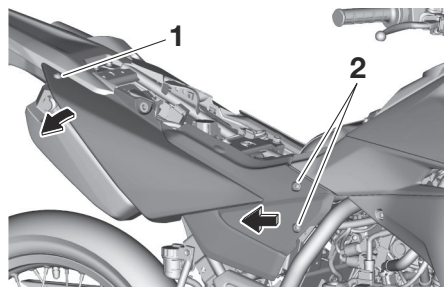
1. 元の位置にカバーとワッシャーを取り付

点検整備

け、ボルトで締め付けます。



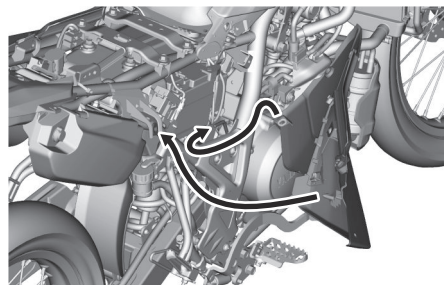
2. シートを取り付けます。



1. ボルト
2. ボルト/ワッシャー

カバーの取り付けかた

1. 図のように、カバー前部の孔を突起に差し込み、カバーとワッシャーを元の位置に取り付けます。



2. ボルトで締め付けます。
3. シートを取り付けます。

エンジンオイル

JAU30274

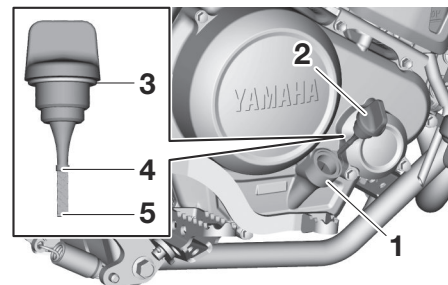
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2~3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。オイルレベルゲージを外し、レベルゲージ部をきれいにふきます。



1. オイル注入口
2. オイルレベルゲージ
3. Oリング
4. フルレベル
5. ロアレベル

カバー B

カバーの取り外しかた

1. シートを取り外します。(4-14 ページ参照)
2. ボルトを外して、カバーとワッシャーを取り外します。カバー後部を手前に引き出し、カバーを後方にスライドさせて取り外します。

3. オイル注入口にオイルレベルゲージを（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

要 点

オイル量がフルレベルとロアレベルの間にあれば適切です。

4. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、8-3 ページ参照）

要 点

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。

5. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

エンジンオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

3000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：

オイル交換時：

0.85 L

オイルフィルター取り外し時：

0.95 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターエレメントの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

9000 km 走行ごと

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

JAU30691

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

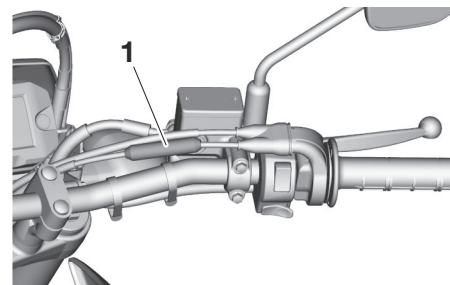
エンジンから異音がないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

JAU44194

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。



1. ゴムカバー

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

JAU20071

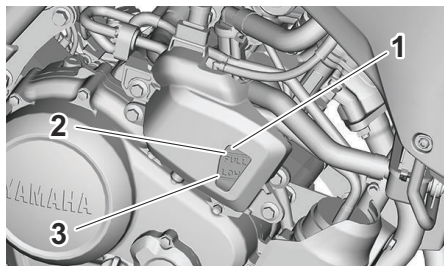
冷却水量の点検

JAU30723

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

冷却水のつくりかた

JAU30805

ヤマループロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

注意

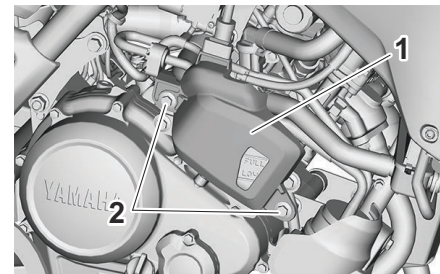
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JCA12112

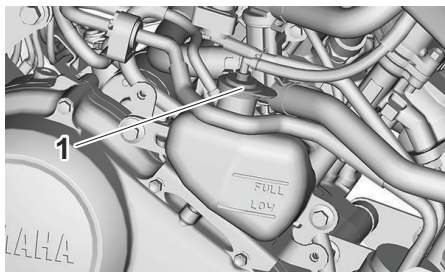
冷却水の補充

JAU70061

1. ボルトを外し、リカバリータンクカバーを取り外します。



1. リカバリータンクカバー
 2. ボルト
2. リカバリータンクキャップを取り外し、冷却水をフルレベルとロアレベルの間まで補充してリカバリータンクキャップを取り付けます。



1. リカバリータンクキャップ

3. リカバリータンクカバーを取り付け、ボルトを締め付けます。

JCA12121

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エアクリーナーエレメントの交換 JAU1835

エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。また、ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースも定期的に点検し、必要に応じて清掃してください。

JCA11951

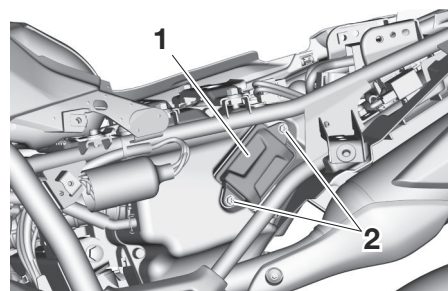
注意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- エアクリーナーエレメントを取り付けなままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。

エアクリーナーエレメントの交換

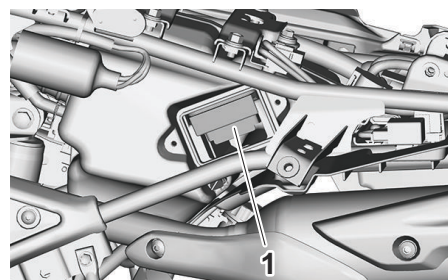
1. シートを取り外します。(4-14 ページ参照)
2. カバー A を取り外します。(7-2 ページ参照)
3. スクリューを外し、エアクリーナーケー

スカバーを取り外します。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

4. エアクリーナーエレメントを引き抜きます。



1. エアクリーナーエレメント

5. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

6. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
7. カバーを取り付けます。
8. シートを取り付けます。

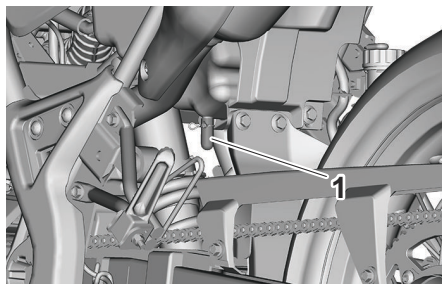
JCA15751

注意

- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、交換を行ってください。

ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

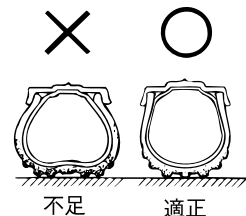
1. ブリーザードレンホースを取り外して点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを清掃し、元に戻します。

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

タイヤ空気圧（冷間時）：

1名乗車：

前輪：

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪：

170 kPa (1.70 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪：

170 kPa (1.70 kgf/cm²)

7

要 点

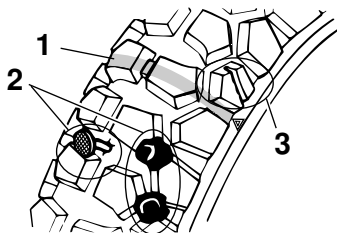
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28583

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺

さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
2. 異物（釘、石など）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28826

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的にトレールタイプのタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが4 mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり**

減ったタイヤは交換してください。

- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：

2.75-21 45P

後輪：

4.10-18 59P

指定タイヤ：

前輪：

DUNLOP/D605FJ

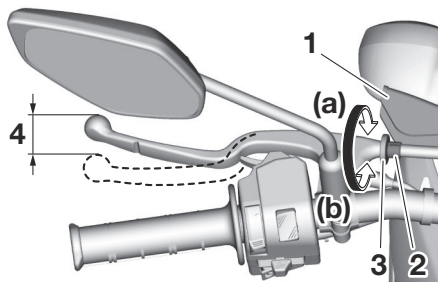
後輪：

DUNLOP/D605J

クラッチレバーの遊びの調整

JAU22047

クラッチレバーの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



1. ゴムカバー
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 遊び

クラッチレバーの遊び

10.0-15.0 mm

クラッチレバーの遊びは定期的に調べて、必要なら以下の手順で調整します。

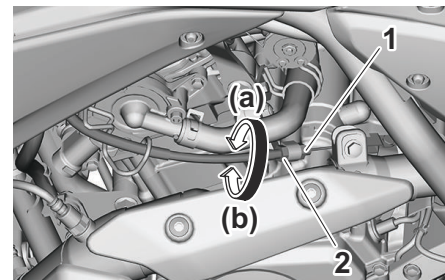
1. クラッチレバーのゴムカバーをずらしませぬ。
2. ロックナットをゆるめませぬ。
3. クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、レバー側のアジャスターを(a)方向に

回します。クラッチレバーの遊びを減らしたいときは、レバー側のアジャスターを(b)方向に回します。

要点

上記の調整でクラッチレバーの遊びが適正になった場合は、4～7の作業は不要です。

4. レバー側のアジャスターを(a)方向にいっぱいまで回して、クラッチケーブルをゆるめませぬ。
5. クランクケース側のロックナットをゆるめませぬ。



1. ロックナット
2. アジャスター
6. クラッチレバーの遊びを増やしたいときは、クランクケース側のアジャスターを(a)方向に回します。クラッチレバーの

点検整備

遊びを減らしたいときは、クランクケース側のアジャスターを(b)方向に回します。

- クランクケース側のロックナットを締め付けます。
- クラッチレバー部のロックナットを締め付け、ゴムカバーを元の位置に戻します。

JWA11841

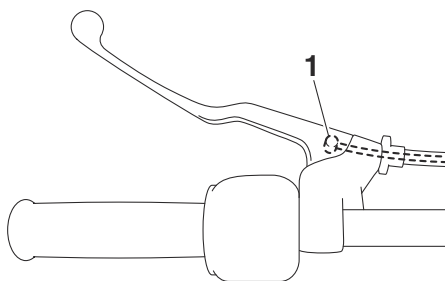
警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。



- ケーブル取り付け部

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31122

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警告

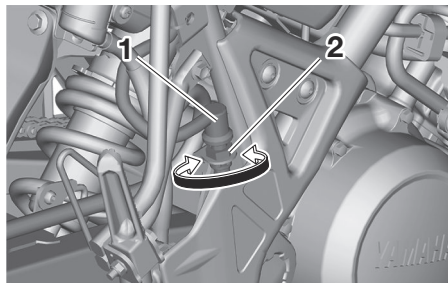
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22275

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12081

注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

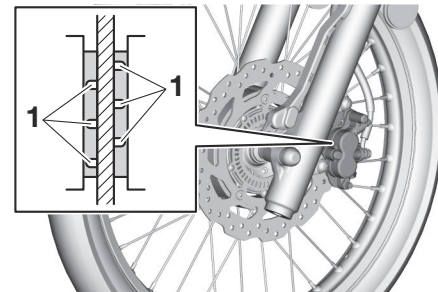
JAU29582

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。

インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

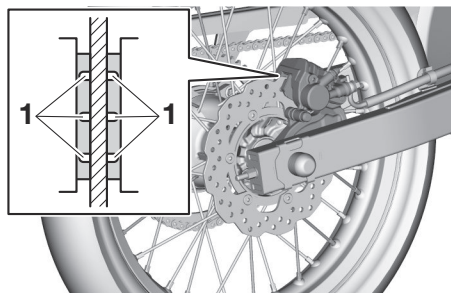
<フロントブレーキ>



1. インジケーター溝

点検整備

<リヤブレーキ>

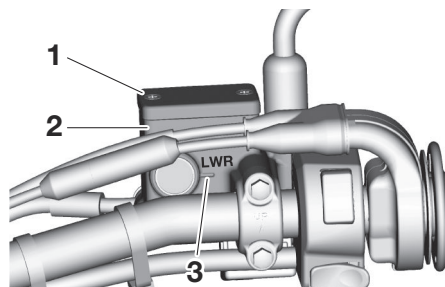


1. インジケーター溝

ブレーキ液量の点検

JAU44233

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

3. ロアレベル

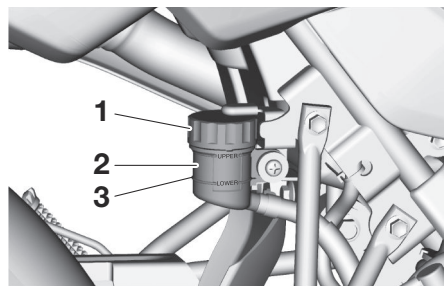
ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

警告

- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

<リヤブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク

ドライブチェーン

JAU22762

どで点検します。

ドライブチェーンの点検

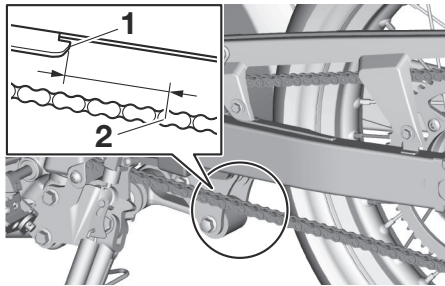
JAU48470

1. ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。

要 点

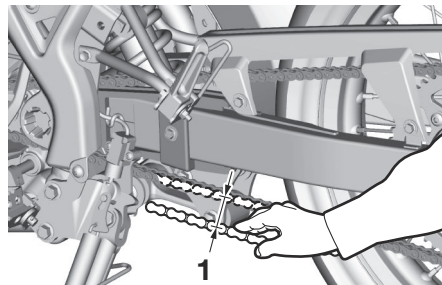
ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

2. 図のように、シールガードの端から後方へ 80 mm を測定し、チェーンの中間位置（ポイント A）を見つめます。



1. シールガード端
2. ポイント A

3. チェーンの間中位置（ポイント A）を手で押し下げて、ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にあるかをスケールな



1. ドライブチェーンのたわみ量

ドライブチェーンたわみ量：

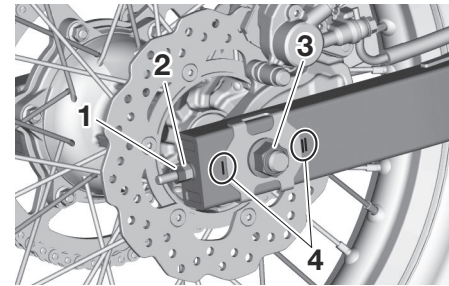
35.0-45.0 mm

4. ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、以下の手順で調整を行ってください。

ドライブチェーンたわみ量の調整

JAU57971

1. セルフロックングナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. セルフロックングナット
4. 刻み目盛り

要 点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックングナット：
69 N·m (6.9 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付け

ます。

締め付けトルク：

ロックナット：

16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

ドライブチェーンの給油

JAU23027

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマーループ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマーループ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

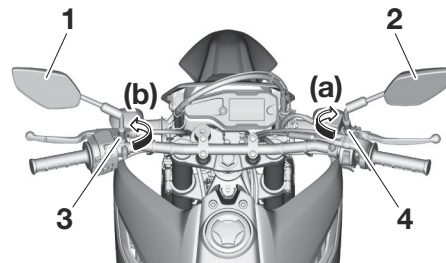
- スチーム洗浄はしないでください。
- シナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

バックミラー

JAU43562

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り (a) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り (b) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

車体各部の給油脂状態の点検

JAU28621

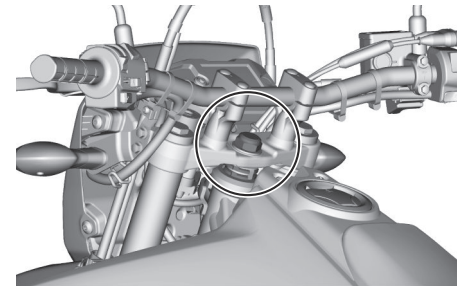
車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

アンダーブラケットの取り付け状態の点検 (ステアリングシステム)

JAU28651

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

バッテリー

JAU28762

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警告

7

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。

● バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

● 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

● 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。

● 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

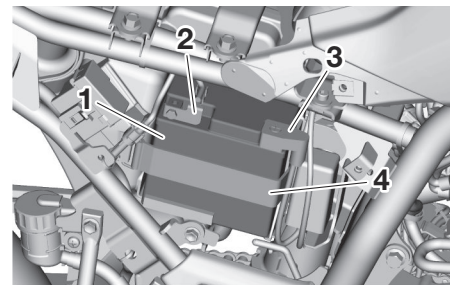
注意

- このバッテリーは密閉式の12Vです。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間で使用にならないときは、3か月ごとに充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU61910

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチをOFFにします。
2. カバーBを取り外します。（カバーの取り外しは7-2ページ参照）
3. バッテリーバンドを外します。
4. -（マイナス）側リード線を外し、次に+（プラス）側リード線を外します。
5. バッテリーを取り外します。



1. バッテリー
2. -リード線
3. +リード線
4. バッテリーバンド

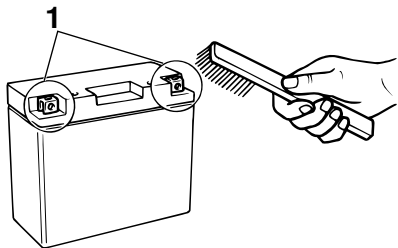
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



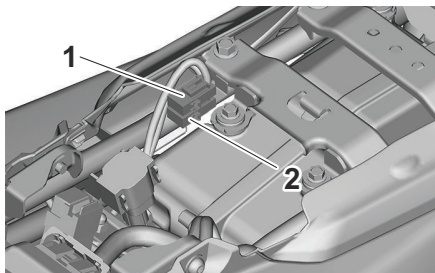
1. ターミナル

JAUN5230

ヒューズ交換

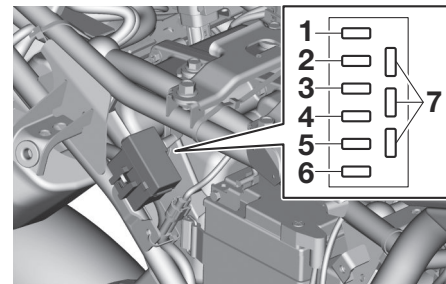
ヒューズボックスと系統別ヒューズは、シートの下とカバー B を外したところにあります。

系統別ヒューズを交換する場合は、シートを取り外します。(4-14 ページ参照)



1. ヘッドライトヒューズ
2. ターミナルヒューズ

ヒューズボックス内のヒューズを交換する場合は、カバー B を取り外します。(7-2 ページ参照)

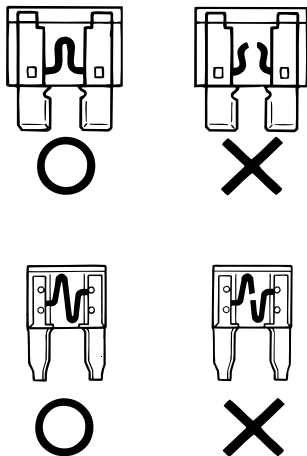


1. イグニッションヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. バックアップヒューズ
4. ABS ソレノイドヒューズ
5. ABS モーターヒューズ
6. メインヒューズ
7. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数

の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ:

メイン:

20.0 A

ヘッドライト:

5.0 A

シグナル:

15.0 A

イグニッション:

15.0 A

ABS モーター:

15.0 A

ABS ソレノイド:

5.0 A

DC ターミナル 1:

5.0 A

バックアップ:

5.0 A

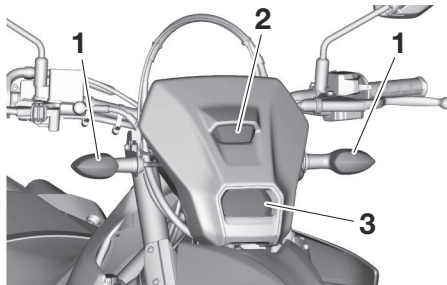
注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のもを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

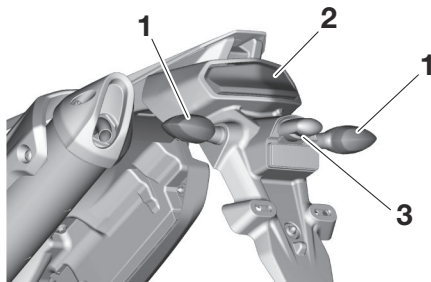
3. 車両の電源をオンにし、ヒューズ交換をした装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU29447



1. 方向指示灯（前）
2. マーカーランプ
3. ヘッドライト



1. 方向指示灯（後）
2. ブレーキ/テールランプ
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。

2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-18ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

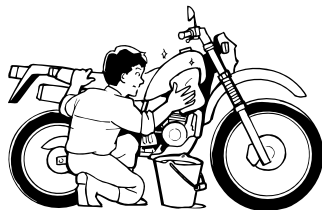
注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなること

があります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12215

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウィンドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

- 書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

アルミフレームの取り扱い

JAU44341

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA14801



警告

変形したり、損傷したアルミフレームは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA16021

注意

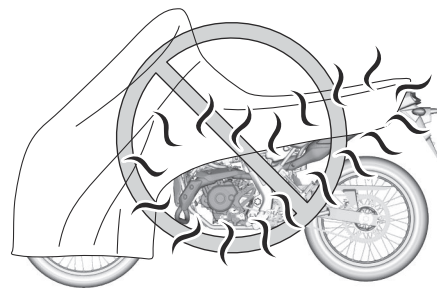
アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

保管のしかた

JAU35912

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



お車の手入れ

JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスかけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機のMotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。

高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。

高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。

ル。

大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。

高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。

価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル(一部車種を除く)。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力して

ホームページを参照するか、
「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



製品仕様

寸法:

全長:
2160 mm
全幅:
840 mm
全高:
1195 mm
シート高:
875 mm
軸間距離:
1430 mm
最低地上高:
265 mm

重量:

車両重量:
138 kg
乗車定員:
2名

性能:

最小回転半径:
2.4 m

エンジン:

行程:
4ストローク
冷却方式:
水冷

動弁機構:

SOHC
気筒数:
単気筒
総排気量:
124 cm³

フロントブレーキ:

ブレーキ形式:
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード:
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ:

ブレーキ形式:
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード:
BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ:

種類:
チューブ有り
サイズ:
2.75-21 45P

メーカー/銘柄:
DUNLOP/D605FJ

リヤタイヤ:

種類:
チューブ有り

サイズ:

4.10-18 59P
メーカー/銘柄:
DUNLOP/D605J

動力伝達機構:

1速:
2.833 (34/12)
2速:
1.875 (30/16)
3速:
1.363 (30/22)
4速:
1.142 (24/21)
5速:
0.956 (22/23)
6速:
0.840 (21/25)

エレクトロニカル:

電圧:
12V

バルブワット数:

ヘッドライト:
LED
ブレーキ/テールランプ:
LED

方向指示灯（前）：

10.0 W

方向指示灯（後）：

10.0 W

番号灯：

5.0 W

マーカーランプ：

5.0 W

エンジンオイル：

推奨オイル：

ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量：

オイル交換時：

0.85 L

オイルフィルター取り外し時：

0.95 L

冷却水容量：

リザーブタンク（FULL レベルまで）：

0.15 L

ラジエターと全ての経路：

0.60 L

バッテリー：

バッテリー型式：

YTZ6V

バッテリー容量：

12 V, 5.0 Ah (10 HR)

スパークプラグ：

メーカー/型式：

NGK/MR8E9

プラグギャップ：

0.8-0.9 mm

二輪車を廃棄する場合は？

JAU36645

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

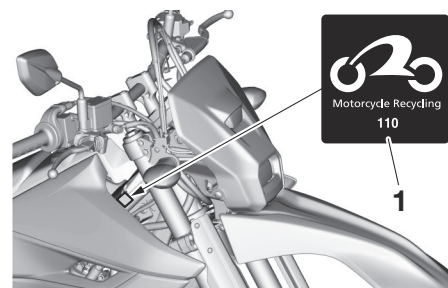
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28393

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：
QQS-CLT-000-BWN

車両情報

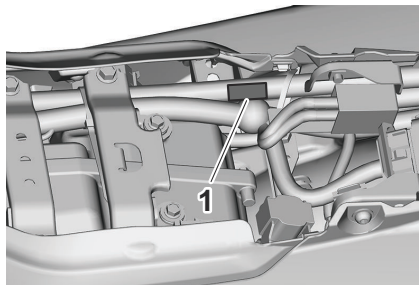
JAU50235

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

WR125R

モデルラベル

製品仕様を示しています。

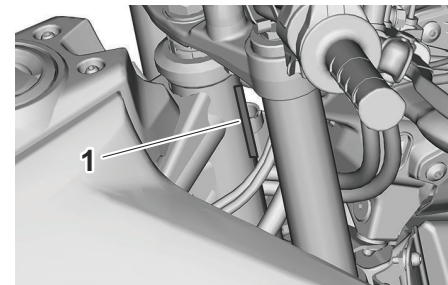
○

カラーリングを示しています。

●

JAU50501

車台番号



1. 車台番号

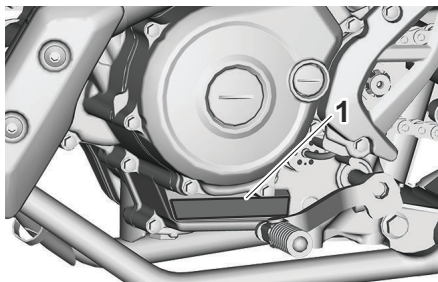
ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

ユーザー情報

原動機番号

JAU50511



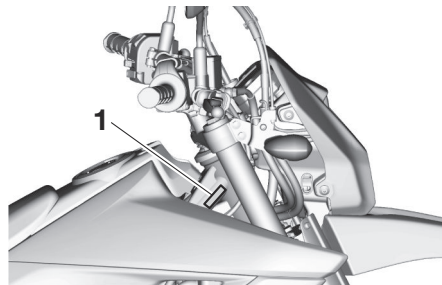
1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

型式認定番号

JAU50522



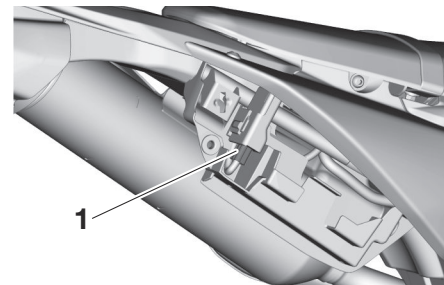
1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクター

JAU73861



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシーポリシーをご確認ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/>

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の3種類の車両情報を記録しています。

- 1) 車体番号
- 2) エンジン/モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
- 3) 故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

- 1) 適切なメンテナンスや故障探求のため
- 2) 適正な保証修理判定のため
- 3) 製品の研究開発
- 4) 製品、機能、およびサービスの品質向上のため
- 5) その他の事業目的を達成するため
- 6) 法的義務の履行や係争事案対応のため

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関する請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ユーザー情報

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500

dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。

関連のないお問合せをいただいた場合、回答できない場合がございます。あらかじめご了承ください。

お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

- あ**
 あなた自身と同乗者のために..... 1-1
 アフターケア用品について..... 8-3
 アプリ接続アイコン..... 4-5
 アプリ通知アイコン..... 4-5
 アルミフレームの取り扱い..... 8-2
 アンダーブラケットの取り付け
 状態の点検（ステアリングス
 テム）..... 7-16
- い**
 イグニッションサーキットカッ
 トオフシステム..... 4-18
- う**
 運行において異常が認められた
 箇所の点検..... 7-20
- え**
 エアクリナーエレメントの交換..... 7-7
 ABS..... 4-12
 ABS 警告灯..... 4-4
 エンジンオイル..... 7-3
 エンジン警告灯..... 4-3
 エンジン始動..... 6-1
 エンジンストップスイッチ..... 4-11
 エンジンのかかり具合、異音の
 点検..... 7-5
- お**
 オドメーター..... 4-7
- か**
 型式認定番号..... 10-3
 カバーの取り外し、取り付け..... 7-2
 環境・住民の方との調和のために..... 1-6
- き**
 キーの取り扱い..... 4-1
 ギヤチェンジのしかた..... 6-2
 ギヤポジションディスプレイ..... 4-7
- く**
 クラッチレバーの遊びの調整..... 7-10
- け**
 警告灯と表示灯..... 4-3
 原動機番号..... 10-3
- こ**
 故障診断コネクター..... 10-3
- さ**
 サービスツール..... 7-2
 サービスマニュアル（別売）の
 紹介..... 10-2
 サイドスタンド..... 4-18
- し**
 CCU（コミュニケーションコン
 トロールユニット）..... 3-1
 CCU の QR コードを読み込む..... 3-2
 シート..... 4-14
 車体各部の給油脂状態の点検..... 7-16
 車台番号..... 10-2
 車両情報..... 10-2
 車両情報の記録に関して..... 10-4
 瞬間燃費表示..... 4-9
 初期設定：Yamaha
 Motorcycle Connect アプ
 リ..... 3-1
 書類入れ..... 4-15
- す**
 スタータースイッチ..... 4-11
- スピードメーター..... 4-5
 スマートフォンのバッテリー残
 量計..... 4-5
- せ**
 洗車..... 8-1
- た**
 タイヤ..... 7-8
 タコメーター..... 4-6
- ち**
 着信通知アイコン..... 4-5
 駐車..... 6-4
- つ**
 ツールボックス..... 4-15
- て**
 DC コネクター..... 4-17
 低速、加速の状態の点検..... 7-5
 点検整備の実施..... 7-1
- と**
 灯火装置および方向指示灯の点
 検..... 7-20
 時計..... 4-8
 ドライブチェーン..... 7-14
 ドライブチェーンの給油..... 7-15
 トリップメーター..... 4-8
- な**
 ならし運転..... 6-1
- に**
 日常点検箇所／点検内容..... 5-1
 日常点検の実施..... 5-1
 ニュートラルランプ..... 4-3
 二輪車を廃棄する場合は？..... 10-1

索引

- ね
燃料..... 4-14
燃料計..... 4-6
- は
ハザードスイッチ..... 4-11
バックミラー..... 7-15
パッシングライトスイッチ..... 4-10
バッテリー..... 7-17
ハンドルスイッチ..... 4-10
- ひ
ヒューズ交換..... 7-18
表示単位切り替え..... 4-5
- ふ
VVA 表示..... 4-6
フューエルタンクキャップ..... 4-13
フューエルトリップメーター..... 4-8
ブレーキ..... 6-3
ブレーキ液量の点検..... 7-13
ブレーキパッドの点検..... 7-12
ブレーキランプスイッチ..... 7-12
ブレーキレバーの遊び/ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検..... 7-11
- へ
平均燃費表示..... 4-9
ヘッドライトスイッチ..... 4-10
ヘルメットホルダー..... 4-15
- ほ
方向指示器スイッチ..... 4-11
ホーンスイッチ..... 4-11
保管のしかた..... 8-2
歩行者と他の車のために..... 1-5
- ま
マルチファンクションディスプレイ..... 4-7
マルチファンクションメーター..... 4-4
- め
メインスイッチ..... 4-1
メッセージ表示..... 4-9
- も
モデルラベル..... 10-2
- り
リヤクッションの調整..... 4-16
- れ
冷却水..... 7-6

Yamaha Motorcycle Connect



あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。



QQS-CLT-100-BWN

PRINTED IN INDONESIA
2025.07